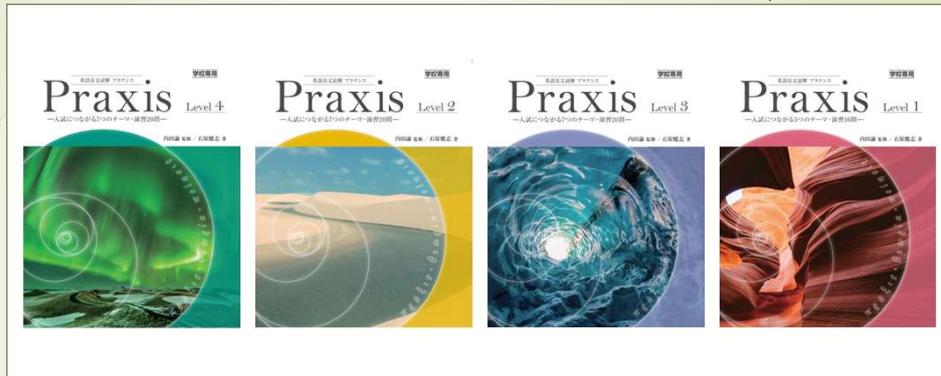


Praxisセミナー 2024@Z会
September 29, 14:00-16:00



自主課題としてのPraxis活用法

～やりっぱなしで終わらせない～

大阪星光学院 教諭 篠木琢良

Abstract

■ 背景

- ・長文問題集の課題を与えると「答え丸写し」「解答を赤で書くだけ」になりがち...
- ・入試に向け「**自律的学習者**」へしていく。(現高1生)

■ 「レポート課題」という形式

冊子に解いて、丸付けで終了ではなく、**解答解説で勉強したことを言語化する**タスクを与える。

■ 課題を成立させるための「文脈」作り

- ①「辞書の引き方」
- ②「構造分析作業に慣れさせること」
- ③「文法書の使い方」 を意識して事前に訓練していた。

課題の課し方

- ①冊子に直接解答、丸付け
- ②単語調べ。
- ③初読時に理解に自信がない英文を、解説を読んでまとめる。
→②、③を「レポート」と言っています。
→②、③を1枚ずつ提出としているが、③は多めに書けば加点。
(④任意ボーナス課題でサポートノート。①②③の提出後に。)

①冊子に直接解答、丸付け

1. 問題冊子本体に直接書き込ませる。
2. 自分で丸付けをさせる。

特に意識せず「課題」として取り組ませている。

⇒もし何かアドバイスがあれば助かります。

② 単語調べ

英文中の未知語を辞書でまとめさせる。

指示内容：

① 品詞

自動詞他動詞の区別

加算名詞、不可算名詞の区別

も含む。

② 用例

動詞は例文必須

名詞もフレーズ単位で用例

例4 previously 以前に

(→ 用 previous: 前の, 以前の)

…今問題になっている事、物、人、物も
前に起った事、物、人、物も指す。一方

例: I had been feeling sick the previous night.

相対的「前」 → × last
: 私は(その)前の晩 気分が悪かった。

例4 fund [V] ~に資金を出す

例: a study funded by the government
政府から資金提供を受けた研究。

例5 compare A with B: AとBを比較する

to → 教値を心の厳密な比較では to 対して with

例: Compare your answers with those of your

: 自分の答えをクラスメイトの答えと対比させよう。 classmate

② 単語調べの目的

「辞書のどこに何が載っているか」を知ってもらう。

〈辞書の姿〉を実感してもらう

- 品詞や用例を書かせる

⇒ 必要な情報がどこ載っているかを見つける能力が養われる。

例4 previously 以前に

(→ 用 previous: 前の, 以前の)

…今問題になっている事、物、人、物も
前に起った事、物、人、物も指す。一方

例: I had been feeling sick the previous night.

相対的「前」 → × last
: 私は(その)前の晩 気分が悪かった。

例4 fund [V] ~に資金を出す

例: a study funded by the government
政府から資金提供を受けた研究。

例5 compare A with B: AとBを比較する

to → 教値を心の厳密な比較では to 対して with

例: Compare your answers with those of your

: 自分の答えをクラスメイトの答えと対比させよう。 classmate

③解説をまとめる

指示内容：

- ・初読時に理解に自信がない英文について、
解答・解説からまとめる。
 - ・〈設問の解説〉と〈英文解説と全訳〉の箇所を提示し、
まとめ方の提示。それ以外の指示はなし。
 - ・〈多様なまとめ方〉を期待して、指示は緩め
結果⇒**様々なレポート**が出てきた。
- 〈補足〉
- ・大学受験に向けて〈**自学する際の型**〉になるようなデザインに。

③レポートの型

①設問の解答解説をまとめる

〈まとめる〉 = 〈解答解説を写す〉
となっている例

⇒当初の想定したレポートの形式

4. 解答 ストリーミングの需要は増加しているが、エネルギー消費量は実際には減少している

文の構造 ... (while streaming demand has increased, energy consumption has actually decreased)

ポイント① (while S+V)
while S+Vは「S+Vする一方で」という対比を表す表現。streaming demandは「ストリーミングの需要」、has increasedが「増加した」という意味である。現在完了は「今でも有効である」ことが中心的意味なので、解答のように「増加している」としてもよい。

ポイント② (while S+Vと主節の関係は?)
while S+Vが「ストリーミングの需要が増加した」という内容であるのに対して、主節はenergy consumption (エネルギー消費)がhas actually decreased (実際には減少した)となっている。

レポート (2-4)

〈while streaming demand has increased〉
energy consumption has actually decreased
:ストリーミングの需要は増加しているが、
エネルギー消費量は実際には減少している。

① 〈while S+V〉
while S+Vは「S+Vする一方で」という対比を表す表現。
streaming demandは「ストリーミングの需要」、has increased
が「増加した」という意味を表すので「増加している」としてよい。

② 〈while S+Vと主節の関係〉
while S+Vが「ストリーミングの需要が増加した」という内容に対し、
主節はenergy consumption (エネルギー消費)がhas actually
decreased (実際には減少した)となっている。

③ レポートの型

① 設問の解答解説をまとめる

〈プラクシス〉は設問の解説が
〈表現の羅列〉ではない。

⇒ 読み手の目線での説明。

解説をまとめる = 英文の意味を処理

⇒ やりっぱなしを回避に？

レポート (2-4)

<while streaming demand has increased>

energy consumption has actually decreased

：ストリーミングの需要は増加しているが
エネルギー消費量は実際には減少している。

例1 <while SV>

while SVは「対比」を表現する。
streaming demandは「ストリーミングの需要」、has increased
が「増加した」という意味を表現して「増加している」としてよい。

例2 <while SVと主節の関係>

while SVが「ストリーミングの需要が増加した」という内容に対し、
主節はenergy consumption (エネルギー消費)が「has actually
decreased (実際には減少した)」となっている。

③ レポートの型

② 構造分析図型

中3時の取り組みが有効に働く

例① 設問の解説をまとめたもの

例② 〈英文解説と全訳〉をまとめたもの
があった。

・ この型のレポートが**最多**

→ Praxisの〈英文解説と全訳〉の
構造分析は必要なところのみの
記述なので生徒にとってまとめ
やすいのがよかった。

例①
<Interestingly> [watching content in high (of) standard quality] does not make a significant difference to the environment.
興味深いこと、新語
Aに「違い」をたどる (significant, little 等)
get, take, have は X

例②
streaming companies
1. They compared streaming with daily activities like [boiling a kettle for six minutes] [making four bags of popcorn in the microwave]
2. make a difference (重荷を減らす、負担を減らす) (よりよい) 重荷を減らす (よりよい) 重荷を減らす
3. while SV : SVのある-方と「対比」
Netflix (one of the companies) (involved in the research) A involved in B: Bに携わるA
aims to achieve net zero greenhouse gas emissions (by the end of 2022).
→ 2022年までに温室効果ガス排出量をネットゼロに削減はしている。

③解説をまとめる

Interestingly, watching content in high or standard quality does not (3) a significant difference [to the environment].

3. 例文 b. make
make a significant difference to ~で「〜に大きな影響を与える」という意味
他の選択肢 a. take, c. get, d. haveはこのような使い方はしない。

4. 例文 ストリーミングの需要は増加しているが、エネルギー消費量は実際には減少している
④文の構造 while streaming demand has increased, energy consumption has actually decreased
⑤ポイント (While S+V)
while S+Vは「S+Vする一方で」という対比を表す表現。streaming demandは「ストリーミングの需要」、has increasedが「増加した」という意味である。現在完了は「今でも有効である」ことが中心の意味なので、解答のように「増加している」としてもよい。

Netflix, one of the companies (5) in the research, aims to achieve net zero greenhouse gas emissions by the end of 2022.

⑥この調査に参加した企業の1つであるNetflixは2022年末までに温室効果ガス排出量ゼロ(実質)ゼロを達成することを目指している。

例① 問題3

Interestingly, watching content in high or standard quality does not make a significant difference to the environment.
興味深いことに、コンテンツを高画質で視聴しても標準画質で視聴しても、環境に大きな影響の違いはない。

例② streaming companies
1. They compared streaming with daily activities like boiling a kettle for six minutes or making four bags of popcorn in the microwave.

3. make a difference
make a difference: 重荷を減らす、(より)軽くなる
no significant: 大きな影響を与えない

4. while SV: SVである一方 = 対比
Netflix (one of the companies involved in the research) aims to achieve net zero greenhouse gas emissions (by the end of 2022).
→ 2022年までに温室効果ガス排出量ゼロを達成しようとしている。

③解説をまとめる

③ 文法書まとめ

- こちら中3時の取り組み(後述)に起因。
- ・本文の文法項目を文法書(総合英語の参考書)で調べてまとめた。
- テキストが「文法項目」をテーマにしているので、まとめやすかったのでは?
- ・文法書(総合英語の参考書)を自分で引くのは大事!

レポート 2-4
・名詞を修飾する分詞(文法書 P000)

・分詞の前置修飾(分詞が1語の場合)
・修飾される名詞と修飾する分詞との間には意味上のSV関係がある

the burning house → the house is burning

the broken glass → the glass is broken

・分詞の後置修飾(分詞が2語以上の場合)
4分詞句

the girl (talking to Bob): ボブと話している女子

③'「解説をまとめる」の文脈

中3時の取り組み その1

- ・構造分析に慣れさせた
 - 授業で扱う長文の予習として全文の構造分析(SVOC、句や節をカッコでくる)をさせていた。
 - 英文を階層的に読む習慣作りが目的で「正確性は気にしなくていい」という指示で実施。
 - 授業時に構造分析はできるだけ詳しく実施。

結果

- ・プラクシスぐらい解説が詳しい本の構造分析図は読める生徒が多い。
- ・難しいものとはともかくthink [that SV]. 等の定番の階層構造は外さないようになった。

③'「解説をまとめる」の文脈

中3時の取り組み その2

- ・文法書の使い方を練習した。
 - 授業時に「これはどこを引いたら載っていると思う？」という発問を繰り返した。
 - 索引が便利なことは強調。
 - 前述のような**辞書指導とセット**
 - ⇒文法書の適切な箇所を自分で参照できるようになるためには、不明な箇所の品詞（分詞等の準動詞の識別も含む）がわからなければならない。

③'「解説をまとめる」の文脈

中3時の取り組み その2

・文法書を開かせるシステム作り（中3時の課題）
解説した英文から1項目だけ選ばせ、文法書を調べてまとめさせる。

→授業で登場した時にみんなで開けるだけでは、使い方を体得するには不十分だと考えた。

→適切な箇所を自分で開ければ、受験勉強の中で有用性に気付ける。

→高1段階で「文法書が役立つから」という理由だけで積極的に文法書を弾ける生徒は稀だと感じるため、課題化して練習を積ませる。

その他 課題におけるボーナス点の活用①

・レポートは最低「単語まとめ1枚+解説まとめ1枚」だが、枚数が多ければ加点している。

→多めに書いてくる子は約半分。

・サポートノートは出したらボーナス点。

→課題として課すと、丸写ししてしまうと考えた。

→**ドリル系**は適宜インセンティブを与えた方が前向きに取り組むそう。

（現在の別の課題で）

→レポート内で**文法書を引用していれば**ボーナス加点。

その他 課題におけるボーナス点の活用②

- ・その学期のボーナス加点課題をすべて提出した場合、ALL-STAR賞としてさらに加点。

→**学年の3分の1**がALL-STAR賞受賞しました。(笑)

補足 その他課題が成立した背景

- ・中学1, 2年時には「課題」 < 「小テスト」。
 - 追試にひっかからないことが彼らの関心事。
 - 高校に向けて中3は自律させていかなければ...
- ・理科の実験レポートを中学の時からたくさん課されていた。
 - まとめる、考察するということには慣れている。
- ・中3時長文の単語調べで、想定よりも良いものが多かった。
 - 成果物を作り上げることに向いている生徒が多そう。

補足 生徒に“攻略”されたレポート

- ・「まとめがいのある英文」とその関連文法事項をピックアップして配布する生徒が現れました。
→狙いの1つである「**自律的な作業**」がピンポイントで破綻...
- ・という自律的、メタ思考生徒が生徒が数人います。(笑)
- ・今後は今回の様々なレポートをモデルに絞った課題をデザインしていきます。

まとめ

- 背景と課題
 - ・長文問題集の課題 → 「答え丸写し」 or 「解答を赤で書くだけ」になりがちだった。
 - ・大学入試に向けて〈**自律的学習者**〉になってほしい。
- 「レポート課題」という形式
 - ⇒ 解答解説で勉強したことを言語化するタスクとなった。
- 課題を成立させるための「文脈」作り
 - ① 「辞書の引き方」
 - ② 「構造分析作業に慣れさせること」
 - ③ 「文法書の使い方」 を意識して事前に訓練していた。

〈結果〉自分で調べたりまとめたりするようになった。